

小澤 實選

新聞紙巻きてハブ酒のハブ隠す

鹿児島市 鶴屋 洋子

【評】一升瓶のなかに生きたハブを閉じ込めてハブ酒をつくるのだらう。瓶のまわりにしかと新聞紙を巻いて、ハブを見えなくするのだ。蛇が嫌いな訪問者のためであらうか。販売の片荷は土用蛭かな

【評】振売の天秤の片方の荷物は、土用蛭が盛られてチカチカと輝いている。もう一方は想像させるわけだ。新鮮な魚が盛られているのか。若冲の鶏柄のシャツ夏旺ん

東京都 永守 澄子

【評】江戸時代の画家若冲が描いた鶏の図を絵柄とした夏シャツを着て、盛夏を楽しんでいるというわけだ。この季節に若冲の鶏は似合う。帯留の赤白緑夏料理

新潟市 古泉 浩子

窓開けて遠き潮騒星涼し

三原市 天崎 千寿

たくしあげズボンの裾や梅雨出水

大阪市 農本 定成

悪相の犬片陰の道塞ぐ

町田市 谷川 治

ぐらぐらと麦茶煮立つや大薬缶
滝しぶき除けつつ沢を登りたり
上尾市 小村 勝子
宝塚市 広田 祝世

津川絵理子 選

夕虹や家族ラインのぶるぶると

宇都宮市 松広 訓

【評】夕方虹が出たので見上げてみると、家族のLINEが来た。「虹が出ているよ」と写真が送られてきたのかもしれない。同じ虹を見て喜べるなんて、やはり家族。アルプスの水で冷やして心太

【評】心太は庶民的な夏の食べ物だが、「アルプスの水で冷やして」と言われると、特別に美味しい気がする。周囲の美しい景色も想像する。蛇穴に入るポケットに五指確か

多摩市 倉林 浩一

【評】ポケットの中の自分の指を確かめる。無意識にしていることかもしれない。季語と相俟って、どこことなく可笑しみが感じられる。サンクラスこまめに水を摂つてゐる

神奈川県 石原美枝子

みどりぐいを抱いて揺らしてしづの女忌

日高市 金沢 高栄

片付の終はればそこに秋の椅子

越谷市 安居院半樹

秋うららボルダリングの母と子と

横浜市 透 美

菊酒や妻が嫌がる差向ひ
かすかなる土の匂ひの萩の風
相模原市 はやし 央
茅ヶ崎市 素粒子

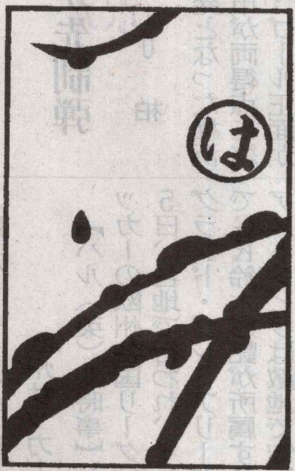
身体への不安

吉川 宏志 (歌人)

短歌あれこれ

身体と心のズレは、今も昔も短歌の大きなテーマである。乃上あつこ『革と桜』(角川書店)は、キックボクシングをする女性の姿を描き、斬新である。八脇を締めまっすぐに打つワンツいで今朝のからだの地軸をさぐる。『さべる』なので、ふだんの身体は不安定であり、激しい運動をすることで自分の存在を確かめようとしているのだ。同時期に刊行された道券はな『ひからせる』(同)には、人形に託して身体の不安を表現した歌がいくつも見られる。人形は淡く微笑む抱かれたら抱かれたままに歪む身体で。身体が苦しんでいることは分かっているけれど、それを隠して生きるしかない空虚さが伝わる。

二人の歌は対照的だが、情報化・機械化があまりにも急速に進む社会の中で、身体が希薄になる危うさを捉えている点は共通していると言えるだろう。短歌の言葉は、時代の軋みのようなものを鮮明に映し出すのだ。



題字デザイン・イラスト 福田美蘭